

研究プロジェクト5 「宣教師関係資料研究」

大江 満

宣教師関係資料は、戦前まで立教学院の経営母体であった米国聖公会の伝道機関誌『スピリット・オブ・ミッションズ』(Spirit of Missions/1836～1939)とその後継誌『フォース』(Forth/1940～1959)が基幹資料となる。立教学院史資料センターでは二〇〇八年度から二〇一四年度にかけて、最初の米国聖公会遣日宣教師が来日した一八五九(安政六)年から後継誌終刊年にあたる一九五九(昭和三四)年までの一世紀を対象とした『立教関係記事集成』を、立教学院一五〇年史資料集として、五巻と別巻(最終巻)にわたり抄訳付で刊行した。

また当センターは、日本聖公会管区事務所所蔵の米国聖公会遣日宣教師書簡群(通称ジャパン・レコーズ、Japan Records)のマイクロフィルムの複写版を、日本聖公会管区事務所と共有できることになり、この膨大な書簡群の目録作業も二〇一五年度に完了した。現在は、立教学院幹部関係、池袋キャンパス移転関係、大学令による大学設立関係などから重要資料を選定して、翻訳作

業をおこなっている。

さらに、一九〇〇年から一九四四年まで発行された日本聖公会機関誌『基督教週報』(一九四三年四月一〇日の八三巻七号より『基督公教』と改題され、一九四四年二月一〇日の八四巻一号が終刊)のデジタル化と詳細な記事目録が完成し、資料センターのHP上で閲覧できるようにになっている(HPは改訂のため一時閉鎖後、二〇一七年一月再開)。

二〇一三年五月に立教創立者ウィリアムズ主教遺品資料(手稿資料と蔵書)が、劣化防止のため日本聖公会京都教区から移管された。それらは、手稿資料(直筆ノートなど)、蔵書類(図書)、ウィリアムズ宛書簡などに分類されるが、前者二つを合わせて七七五点、受信書簡は約五〇〇通におよぶ。特に選定された貴重な手稿資料は、複数年計画で脱酸化処理など必要な修復保全を施す措置を講じ、修復を終えた資料は中性紙箱に収納されている。五〇〇点以上ある蔵書類(図書)は一冊ごとに寸法を計測した中性紙箱に収納し(二〇一七年度)、オリジナル図書は手稿資料ともに非公開とし、永久保存の予定にしている。現在、研究者閲覧用のために(公開時期未定)、デジタル撮影(スキャニング)を複数年計画でおこなっており、それらのPDF化とその打ち出し紙資料を整備している。

二〇一三年一〇月一八日～二三日に池袋キャンパスで、ウィリアムズ移管資料から選抜した二八点の画像（三浦健司氏撮影）を、同年一〇月二五日～二九日には新座キャンパスで展示公開し、そのパンフレットを作成した。

二〇一六年度は、選抜したウィリアムズ直筆資料や署名・押印のある蔵書群などの主要資料一二六点を収載する図録（三浦健司氏撮影）を発行し、その巻末には、掲載した主要資料以外も含めた全てのウィリアムズ主教移管資料の目録を付した。

研究プロジェクト6 「立教学院の戦後」

鈴木勇一郎

本年度も昨年度に引き続き、関係者へのインタビュアを展開するとともに、『立教学院一五〇年史』編纂に備えて、戦後史の検討を行った。

本年度のインタビュアは、重要プロジェクトに関わった事務職員に加えて、戦後の卒業生に対しても積極的にアプローチした。岩尾氏に対しては学生部及び新座キャンパス事務部在職時、平形氏には立教大学在学中の諸経験、島野氏には立教理科専門学校在学時の戦時中の諸経験を中心に聞き取りを行った。

・岩尾庸右氏（五月八日）【鈴木】

・平形千恵子氏（一〇月二二日）【奈須・宮川・宮本】

・島野喜道氏（十一月二二日）【奈須・宮川・宮本】

以上